

誰も実現できなかった技術を開発し世界一 技研の挑戦の先に見える未来への架け橋



赤岡町にある圧入技術の情報発信基地 RED HILL1967

現在、社会を取り巻く問題は様々である。豊かな自然に包まれた高知県でも、環境破壊や自然災害、少子高齢化による人口減少など地域課題が多く存在する。

私たちジビエ部は、鹿による森林の被害被害に対し、捕獲された鹿肉を商品化し、販売で得た利益を寄付という形で陸の豊かさを守り抜く活動に貢献している。環境保全と森林の再生につながる取組は、簡単ではないが確かな一歩につながっていると感ずる。

未来は挑み続ける人の手で 挑戦を続ける姿勢と課題

技研製作所は、圧入技術を活かした建設機械を自ら開発してきた会社だ。国内だけでなく海外にも技術を提供し、工事を受注している。実際にオランダでは、世界遺産の運河沿いにある老朽化した護岸を同社の機械で補強することに成功した。他にも40以上の国と地域で、この技術が採用された。まさに「世界の技研」と呼ばれる存在である。特に、世界で初めて振動や騒音を大きく抑えながら杭を打ち込む「サイレントパイラー」の開発は、建設業界に大きな革命をもたらした。住宅地などで工事がやりやすくなり、環境への負担を減らすことや、工期の短縮、コスト削減にもつながっている。さらに現在では「地上に文化を、地下に機能を」というコンセプトのもと、地下空間を活用した駐車場や駐輪場の建設や、現在問題視されている南海トラフ地震への対策として、「インプラント工法」を提案し、防災インフラ整備に貢献している。また月面での「宇宙建設革新プロジェクト」において、「技術研究開発（R&D）」を継続しているという。次々と新しい技術を生み出し、社会の基盤を支えてきた姿勢は、まさに挑戦そのものだ。

特に時代の変化に合わせて改良を重ね、進化してきた「サイレントパイラー」の姿は印象的だった。

もちろん挑戦する際、困難もある。取材の中で、総務部の澤田さんは「今の課題は当社の取組を広く社会に浸透させていくことです。各地でPRしながら世代ごとの新しい考えを取り入れていきたい」と語ってくれた。新しい技術を広め、次世代と二緒に成長していくこととする姿勢からも、挑戦を続ける強さが伝わった。

この「挑戦する姿勢」は当部の活動にもつながる。高知の伝統を守りながら、日曜市活性化、高知の歴史を再発見してもらうため、土佐の偉人とジビエを掛け合わせた商品開発に挑戦している。街の伝統的景観を維持しながら、技術開発で次世代の社会を創る同社と、鹿肉を商品化し販売することで、陸の豊かさを守る当部。一見違う分野だが、「挑戦を続けることで未来社会に貢献していく」という思いは同じだ。挑戦に終わりや正解はない。技研製作所は技術で社会を支え、私たちは鹿肉の活用を通じて森を守る。未来は挑み続ける人の手によって切り拓かれる。



ものメッセKOCHI2025
第14回高知県
ものづくり総合技術展

2025年(令和7年)
11月15日
土曜日

発行所

高知市立
高知商業高等学校
ジビエ部Cチーム

協力
株式会社高知新聞社

号外

取材の様子はコチラ!

ものメッセ
KOCHI2025



教えて!
澤田 晶斗さん

担当してくださった澤田さんに会社のこと働くことのある、進化してきた「サイレントパイラー」の姿は印象的だった。



〜お仕事編〜

Q 企業が抱える課題や問題は何かですか?

A 一般的にまだこの技術を認知している人が少ないことが課題です。PRする場所を設けてよりたくさんの人に認知してもらえようように頑張っています。

Q 仕事のやりがいは何ですか?

A 今回のような企業説明で興味を持ってもらい、その結果、入社につながったときにやりがいを感じます。ただ、少し難しい技術だったりするのでその技術を一般の人にわかってもらえようように日々勉強しながら頑張っています。

〜未来・メッセージ編〜

Q 今、技研製作所が求めている人材はどんな人ですか?

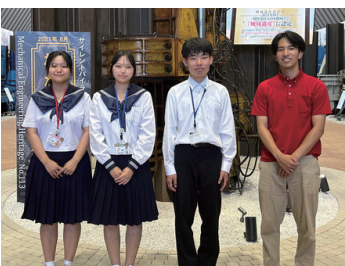
A 新しい発想や考えを持ち、色々なことにチャレンジする人です。今のことを今以上に発展させてくれる人を求めています。

Q 最後に高校生に何か伝えたいメッセージはありますか?

A 学生のうちにしか経験できないこともたくさんあるので、チャレンジしていくこと。人としての引き出しを増やせるようにチャレンジ精神を忘れないようにして欲しいです。

編集後記

今回「株式会社技研製作所」の皆様にご協力していただき取材をしました。取材の中で技研製作所の挑戦し続ける姿勢に強い刺激を受けました。社会問題の解決には正解があるわけではありません。沢山の試行錯誤と挑戦を重ねることで、様々な可能性の扉が開いていくのだと学びました。私たちジビエ部もまた変わり続け、挑戦し続けます。挑戦を続けることが、未来につながる力になると学んだ以上、私たちもその学びを胸に、これからも歩み止めず、前へ進んでいきたいと思いました。



高知商業高等学校
ジビエ部 Cチーム